緋弾のアリア―転生者の軌跡―

雪丸

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
緋弾のアリア―転生者の軌跡―

【Ｎコード】
Ｎ９６６１Ｚ

【作者名】
雪丸

【あらすじ】
とある理由でこの世を去ることになってしまった『芳野　神威』
しかし、絶対神『ゼウス』斗の出会いで神威は《緋弾のアリア》の世界に転生することになった。
転生した神威は原作の主人公たち『遠山キンジ』『神崎・Ｈ・アリア』
と出会う前に、『とある人物』に出会ってしまう。
のちに起こる事件でその人との出会いがまさか運命の出会いになるとは・・・

失敗は誰にでもある（前書き）

サブタイの理由は本文の最後に・・・

失敗は誰にでもある

「ここは・・・どこ？」

気がつくとそこは、真っ白な何もない空間だった。見渡す限り白が視界を埋め尽くす。・・・・ずっと見ていたら気が狂いそうだ

「・・・ここは、世界の狭間じゃよ。稀に死んだ人間が迷い込んでしまう場所じゃ」

後ろから突然声が掛かってきた。驚いて振り返ってみると、そこには、白い顎鬚を長く伸ばした老人がいた。

「アンタは・・・？」

「おお。そうじゃったな。わしの名は、ゼウス・・・まあ一応総ての神を束ねているものじゃ」

「・・・マジ？」

「マジじゃ。」

「じゃあ俺がここにいるのは・・・」

「無論死んだからじゃの」

・・・やっぱりか。世界の狭間って聞いてもしかしたらと思ったけど・・・でも辛いなぁまだやりたいことも沢山あったのになぁ・・・

「・・・俺の死因は？」

「・・・主（ヌシ）の死因は・・・いや実際に見たほうがいいじゃろう」

ゼウスさんはそう言って俺の額に手を伸ばしてきて、それと同時に何か呪文のようなモノを唱えると、その瞬間俺の頭の中に死の直前の光景がよみがえってくる。

「・・・そうか俺は、殺されたのか。」

「・・・・・・・」

そう俺は、学校から家に帰るといつも鍵をかけて空いていないはずのドアが空いていたから不審に思いながらも家の中に入って自分の部屋に行こうとした瞬間に背後から心臓の部分を一突きで殺されたのだった。

「・・・ありがとうゼウスさん」

「？・・・何故じゃ？何故わしに感謝する？」

「何故ってそりゃあ思い出させてくれたからですよ」

俺はゼウスさんに此処で逢わなかったら自分がなぜ死んだかも知らずにいたのだからゼウスさんには感謝している。・・・まあもう少し生きていたかったという欲も少しは残っているけどさ・・・

「・・・ふふっ・・・フハハハハハッ！！」

「なっ・・・何かおかしなこと言いましたっけ俺？」

「フフッいやスマンのう。お主のような考えをした奴を此の所見変えないものでの。・・・気に入ったっ！！お主を転生させてやる」

「転・・・生・・・？」

「うむ。・・・じゃがもう元の世界に生き返ることは出禁がそれでいいかの？」

それってもう一度人生をやり直せるってことだよな？・・・本当に？

「本当じゃ。・・・と言っても世界はこちらで指定させてもらうがの。」

「十分だよっ！！・・・それで俺が転生する世界はどんなとこですかっ！？」

「まあ落ち着くのじゃ。・・・主（ヌシ）に行ってもらう世界は・・・《緋弾のアリア》の世界じゃ」

・・・・・・はぁぁぁぁぁぁっ！？アリアの世界ってあの！？・・・生き残る自信ないよ

「大丈夫じゃ。コチラで主（ヌシ）の要望を３つまでなら叶えよう。」

「本当にですかっ！？・・・じゃあまずは、身体能力の向上。出来ればＳランクより少し上で。」

「お安い御用じゃ。他には？」

「二つ目は、不老不死に近いのでいいや。寿命が人間の数十倍くらいで。」

「ふむ。不老不死じゃのくていいのかの？」

「はい。・・・それと最後ですが・・・」

これだけは叶えて欲しい。ほかのが叶わなくてもいいから・・・まあ俺が考えた願いの中でも一番優先して欲しい願いだから。

「して・・・その願いとは？」

「・・・将来俺に大切な人が出来たら俺と同じ寿命にできる方法が欲しい。」

・・・俺は、寂しがりだから。一人でいると壊れてしまうだから・・・独りは怖いから・・・・

「ほぅ。欲しいときたか。・・・いいじゃろうっ！！主（ヌシ）の願い全て叶えてやろう」

「ありがとうございますっ！！」

ゼウスさんに向い俺は、自分で言うのもなんだけど綺麗なおじぎをした。・・・と思う。　ゼウスさんは俺の心情を見通したように（実際は見通しているんだろうけど。・・・神様だし）笑うと

「それでは送ろうかの。・・・能力はあちらに着いたら付くようにしておるから安心していきなさい」

「本当に何から何まで有難うございます」

「気にするでない。それでは・・・『彼の者を《緋弾のアリアの世界へ》』」

ゼウスさんがそう言った瞬間。俺の体は何かに吸い寄せられるようにゼウスさんの下から離れていく。その時にゼウスさんが呟いたことを俺は一生忘れないだろう。

――――――――ワシのミスで死んだ事バレずに済んで良かった・・・――――――――

とつぶやいたのを聞いた俺は神の領域（今ま命名）を離れきる前に

「覚えてやがれッ！！クソジジィッ！」

こうして俺こと『芳野　神威』は緋弾のアリアの世界に転生することが決まりました。・・・最後の神の呟きが気に入らないがまあこれからの人生を満喫するとしよう。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9661z/

緋弾のアリア―転生者の軌跡―

2011年12月30日01時47分発行